

第16回大会

12月2日(土)13:00

12月3日(日) 9:00~12:30

国立大洲青少年交流の家

3年の時間を経て参集開催

かかわりをチカラに つながりをカタチに

地域教育で未来を創る



※このポストイットに感想を書いて、大ホールのボードにはってください。

主催 地域教育実践ネットワークえひめ

後援 文部科学省・愛媛県・愛媛県教育委員会・「えひめ教育の日」推進会議・愛媛県教育研究協議会

協力 国立大洲青少年交流の家・NPO 法人えひめ子どもチャレンジ支援機構

ワクワク・ドキドキ・ジーンとするような大会を目指そう



地域教育実践交流ネットワークえひめ
代表 若松 進一

家庭では核家族化、学校では人口減少による学校統廃合、地域では進む情報化や頻発する自然災害など、子どもを取り巻く社会は大きく変化し続けています。

そのような中においても、未来に生きる子どもたちの成長を願って家庭や学校、地域が相互補完しながら、それぞれの立場で子どもを守り育てる活動が、多くの人の熱い思いに支えられ積極的に行われていることは喜ばしい限りです。

十五年前、国立大洲青少年交流の家で産声を上げた地域教育

実践交流集会は、活動から産まれた人と情報のネットワークの広がりの中、今年で第十六回を迎えています。新型コロナウイルスの影響でこの三年間はオンラインや規模縮小を余儀なくされていましたが、一類から五類への引き下げもあつて、やっと従来の姿に戻って対面で開催することができました。

出揃った分散会、発表団体県外十四、県内三十一の多さには驚いています。かかわりをチカラに、つながりをカタチに「地域教育で未来を創る」という今年のテーマのもと、大いに議論と交流を行い、ワクワク・ドキドキ・ジーンとしながら、近未来となった二十回目を目指して大いに力を蓄えましょう。



アトラクション

川上子供神楽(八幡浜市)

八幡浜市川上地区では、川名津柱松神事(愛媛県無形民俗文化財)が毎年4月に行われており、その神事に川名津神楽が奉納されています。

八幡浜市立川上小学校の6年生の児童たちが平成16年度のひびき集会で川名津神楽のことを調査し、発表したことをきっかけに翌年から

川名津神楽保存会の方々から神楽を直接学び、子供神楽として演目を披露するようになりました。

神楽保存会から学ぶ神楽は、単に地域の文化・伝統として受け継ぐものとしてだけでなく地域の誇りとして自分たちの生活に落とし込むことができる貴重な学びとなっています。

また、将来は川名津神楽保存会に入り活躍したいという目標を持つ児童もおり、地域の担い手づくりにもつながっています。

令和5年度は、これまでの19年間で一度も挑戦したことのない演目「大魔」に挑戦しました。地域の熱情がこの子供神楽の中に注ぎ込まれています。



Schedule

総合司会：堺 雅子

12月2日(土)

12:00 受付

13:00~13:20 **歓迎アトラクション**

川上子供神楽

13:20~14:15 **開会行事**

ようこそ！ 代表 若松 進一

歓迎ワークショップ

俳句でこんにちは キム・チャンヒ

助人 柴崎 あい

平岡 剛

14:30~17:30 **分散会** (くじ引きで参加する分散会が決まります)

15分分散会 45事例

17:50~

出会いの広場

※自由な時間です。新しい仲間との名刺交換の場としてご利用ください。

19:20~21:00 **交流会**

司会 西山 博

武智 理恵

谷川 玲子

※チャリティーオークション

若松 進一

12月3日(日)

9:00~9:50 **リレーインタビュー**

県外 NPO 法人みらいず works (新潟県)

発表者：角野 仁美

聞き手：関 福生

県内 愛媛大学教職大学院 中尾ゼミ (松山市)

発表者：善家瑛徳・新宮美月

坂本鈴佳・神野哲汰

聞き手：中尾 茂樹

10:00~12:10

おでん∞café

お題「どうする地域教育」

回し人 舟田 美加

12:20

閉会挨拶

副代表 眞鍋 幸一

12:30

解散



正岡子規をはじめ、高浜虚子、河東碧梧桐、中村草田男、石田波郷、富澤赤黄男、芝不器男などなど、愛媛は数多くの俳人を輩出し、全国的にも俳句が盛んな土地です。

古くは連歌からの歴史を持つ俳句には、挨拶代わりに詠む文化があります。今回は、皆さんに「ごあいさつの一句」を詠んで頂きます。

「俳句なんて難しい！」と思われる方も大丈夫！ 7音程度の言葉を思いつくだけで、簡単に俳句が作れる技を伝授します。

自己紹介や意気込みを五七五に託し、俳句で楽しく交流を行います。

キム・チャンヒ

分散会 LIST



	発表団体名	地域		発表団体名	地域
1	未来応援コミュニティ b-room ぶるーむ	大分県	9	NPO法人みらいずworks	新潟県
21room	三芳祝太鼓保存会	西条市	オリエンテーション room	特定非営利活動法人 えひめグローバルネットワーク	松山市
	愛媛大学教職大学院中尾ゼミ	松山市		畑地小学校 地域学校協働活動 「和船競漕・三番隻」復活有志	宇和島市
2	公益財団法人 東広島市 教育文化振興事業団	広島県 東広島市	10	Minecraftカップ 運営委員会事務局	東京都
22room	SAIJO SOUP実行委員会	西条市	30room	NPO団体イトコ道後	松山市
	一般社団法人 マツノイズムプロジェクト	北宇和郡 松野町		愛媛県立八幡浜高等学校 商業研究部A★KIND	八幡浜市
3	島根県益田市 NPO法人おむすび	島根県 益田市	11	NPOおのみち寺子屋	広島県 尾道市
23room	松山聖陵高等学校特進コース	松山市	31room	立花地区コミュニティ推進会	今治市
	十本松峠の整備と復活の会	宇和島市		公民家サークル	松山市
4	国府中学校防災学習倶楽部	徳島県	12	なんぶサイカツ (南部町の若者有志)	鳥取県 西伯郡南部町
24room	伊予市「咲む」を観る会 実行委員会	伊予市	32room	今治市防災士会	今治市
	久万高原 山と森とモルック	上浮穴郡 久万高原町		久米わくわくチャレンジサタデー	松山市
5	あおばコミュニティ・テラス	神奈川県	13	NPO法人 ひとつむぎ	徳島県
34Aroom	フラピクニック実行委員会	伊予市	33room	みちくさこども食堂	松山市
	特定非営利活動法人 U.grandma Japan (うわじまグランマ)	宇和島市		双海町ジュニアリーダー会	伊予市 双海町
6	広島県府中市教育委員会	広島県	14	NPO法人 だっぴ	岡山県
34Broom	にはまグローバルネットワーク	新居浜市	リフレッシュ room	スクマの会 (不登校対策サポートチーム)	新居浜市
	愛媛県立北宇和高等学校三間分校 地域情報ビジネス部	宇和島市		教会子ども食堂	松山市
7	社会教育士すぎなみの会	東京都	15	無人島チャレンジ実行委員会	愛媛県
35room	東温市地域教育プロデューサー (地域学校協働活動推進員)	東温市	ミュージック room	愛媛県立松山工業高等学校 工業化学同好会	松山市
	一般社団法人 未来のわくわく研究所	宇和島市		いよ本プロジェクト運営委員会	伊予市
8	あおば障がい児者ネット つむぐ	神奈川県			
36room	いよあかり	伊予市			
	えひめ地域コーディネーター ネットワーク	大洲市 東温市			



未来応援コミュニティ b-room ぶるーむ

佐藤 淳子(大分県)

「家庭でもない学校でもない第3の居場所」として、高校生が安心して過ごせる居場所づくりを目指しています。

地域の仏壇店が無償で貸してくださった駅通りにあるテナントが私たちの居場所「b-room」です。放課後は気軽に立ち寄れる場所に、土日祝祭日は高校生向けの講座、ボランティア活動や体験活動を行っています。また地域内にある県立高校と連携し、高校生が地域で活躍できる機会をコーディネートしています。

これからも、b-room の活動をとおして地域が高校生の輝ける場所に、また高校生が地域をもっと元気にできたらと思います。

三芳祝太鼓保存会

安藤 記代(西条市)

三芳祝太鼓保存会は、現在 三芳小・庄内小の児童11名で活動しています。

昭和60年に、愛媛県教育委員会が推進している、校外活動グループ育成事業の一環として「三芳わらべ歌グループ」が発足し、昭和62年に三芳小の落成記念として、公民館とPTAから太鼓4張が寄贈され「三芳祝太鼓」が誕生しました。平成7年に現在の「三芳祝太鼓保存会」へと引き継がれてきました。

郷土を知り、郷土に親しみ、伝統文化の保存、伝承を目的として演奏活動を続けています。

子どもたちには、太鼓を通して「協調性・思いやり・自分に自信を持つこと・きちんと挨拶をする・感謝の気持ちを持つこと」を伝えるとともに、地域の活性化のため活動をしていきたいです。

愛媛大学教職大学院中尾ゼミ

神野 哲汰(松山市)

中尾ゼミの研究テーマには、地域教育の推進や防災教育の充実があります。そしてどれも、「為すことによって学ぶ」ことがその基盤となっています。

児童生徒数の激減が顕著な愛媛県にあって、閉校となっていく小規模校に大学院生たちが関わり、学校がいかにかがえのない存在であるかを実感し、教職への思いを更に高めていく活動実践をまず紹介します。

他にも、4年ぶりに再開された無人島体験活動への参加記録や、慶応大学大木ゼミとタイアップした東温市での防災教育(新しい避難訓練の提案)事業など、試行錯誤しながらの若さ溢れる取組の数々に、どうか御指導をよろしくお願いいたします。

公益財団法人 東広島市教育文化振興事業団

福永 崇志(広島県)

大学生が市民と一緒に、自ら積極的にボランティア活動に参加する、大学・行政との連携事業によるアクティブラーニングの講座です。

実際に生涯学習ボランティアとして活動している市内の団体、活動実践者、支援団体等をゲストスピーカーとして迎え、様々なジャンルをオムニバス形式により講義・演習を行います。

大学生が、この地域におけるボランティア活動の役割と、これからの社会を担う若者としての役割を考え、一人の地域住民として、どのような活動が求められているのか、何ができるのかなど、地域活性化につなげるために、多様な視点から考察することができるようになることをねらいとしています。

SAIJO SOUP 実行委員会

山下 真弘(西条市)

スープを飲みながらまちづくりのプレゼンを聞いて語り合う、アメリカデトロイト発祥のイベント。国内 2 例目として愛媛県西条市で 2020 年に立ち上げ。これまでに 5 回開催し、多方面でのチャレンジャー・プロジェクトが生まれました。

SAIJO SOUP は、小さな「やってみたい」を表現する場と、誰かの「やってみたい」を応援・協力する場をつなぐことを目的に、実行委員会メンバーがボランティアで企画・運営しています。このイベントでは、投票権を購入した参加者がプレゼンテーションを聞き、一番応援したいと感じたアイデアに投票します。優勝プレゼンターには当日の投票権の売上総額がアイデア実現資金として贈られます！



一般社団法人マツノイズムプロジェクト

井上 弘一朗(松野町)

私たちの住む松野町は人口約 3700 人の愛媛県で規模が一番小さな町です。そんな松野町は「森の国」と呼ばれており、その名の通り、総面積のうち 84%が森林です。

松野町は高知県との境に位置しており、旅人の多くがこの松野町で旅の疲れをとっていました。その名残として松丸街道があります。かつては宿屋や商店が立ち並んでいましたが、今現在その賑わいは昔ほどありません。また、松野町にもかつて高校はありましたが、現在では松野町に高校はありません。それでも、高校生はいます。

「この町が 50 年後、100 年後、果たして残っているのか。」私たちが「ふるさと」といえる場所を残すために、総合的に町の課題解決手段を高校生から考え、町の未来をプロデュースしています。

島根県益田市 NPO 法人おむすび

大畑 伸幸(島根県)

2016年(平成28年)から本格的に「ひとづくり」を施策の中心に据え、世代をつなげてきた益田市では、公民館が「ひとづくりの館」として人と人を丁寧につなげてきました。

その一環として、子どもたちと地域の大人をつなぐために、夏休みに、各公民館で「寺子屋」が多数開催されています。特に、コミュニティスクールに配置されている社会教育コーディネーターは、公民館と協働で「寺子屋」を積極的に開催しています。そして、このことが、子どもたちの地域での活動の入り口にもなっています。



松山聖陵高等学校特進コース

伊賀上 大三(松山市)

本校にて隔週土曜日に、高校生が地域の中学生に無償で学習支援を行う「土曜塾」を運営しています。中学生の学力を向上させることで地域社会に貢献することと、高校生のキャリア教育の一環として取り組み、将来のイメージを具体化させることを目的としています。

また、来年度より将来先生になりたい生徒を育成するための「教員養成講座」を新設する予定です。今年度は先行して保育園と小学校と連携し、生きた学びを体験させています。それぞれの「先生」になりたい生徒を対象として、主体的で深い学びにつながるよう、大学とも連携していく計画を立てています。この取り組みが、社会問題化している教員なり手不足の解消につながることを期待しています。

十本松峠の整備と復活の会

浪口 長正・渡邊 正三・武田 利康(宇和島市)

宇和島藩から分知されて、伊予吉田藩となった三間町と結ぶのが、十本松峠です。

人々の往来、物資の運搬に利用され、峠には店屋(茶店)が2軒建つほど賑わっていました。昭和の終わり頃まで、峠から宇和海の眺めが美しいため、小学生の遠足ルートにもなっていました。その後、訪れる人がいなくなり、私たちが活動を始めた頃は、道が壊れた箇所や、倒木、雑草、雑木が生い茂り、通行ができない状態でした。

以前のように、明るく、オンツツジがいっぱい咲く山にして、皆さんに喜んでいただきたいと思い活動を始めました。三間町の次世代を担う子供たちとの活動も紹介します。

国府中学校防災学習倶楽部

中山 直之(徳島県)

私たち国府中学校防災学習倶楽部は、発足 3 年目の同好会です。国府町を、防災学習を通して地域とつながり、国府町の明るい未来を切り拓くことを目的に活動しています。

「ふらっと KOKUFU」は徳島県社会福祉事業団であり、本年度で 2 周年を迎える新しい施設です。「ふらっと KOKUFU」では、様々なイベントが毎月開催されており、その中で「学べる防災」コーナーを担当しています。ここでは、小さい子向けの防災クイズや防災紙芝居、本倶楽部の活動発表などを披露しています。

また、「国府マルシェ」や「子ども食堂」への参加、お手伝いを通して地域の方々と交流し、学び合っています。

伊予市「咲む」を観る会実行委員会

阿部 美紀(伊予市)

2年前(2021 年)に、ろうの女性が限界集落の村おこしに奮闘する映画「咲む」を上映した際に得た収益を社会貢献に活用しようと企画。表現豊かな手話の魅力や、障がいの有無に関係なく得意分野で協力し合う大切さを伝えたいと、伊予市に伝わる民話を手話と紙芝居、語りで楽しむことができる DVD を制作しました。収録した作品は4話。手話での語りと紙芝居の作成をろう者が、声での語りを読み語りボランティアが担当しました。

完成した DVD は、市内の小中学校等へ寄贈するほか、インターネットの動画投稿サイトでの配信を予定しています。



久万高原 山と森とモルック

武山 智一(久万高原町)

「久万高原 山と森とモルック」は、久万高原町の活性化を目指して、活動しているモルッククラブです。

我々はモルックを通じた魅力ある地域づくりの推進、町民がモルックを通じて久万高原町の活性化に貢献する機会、場の充実を図るための活動に取り組んでいます。

久万高原町ならではのアウトドアを楽しむ機会を創出することで、地域の賑わいを生み出し、たくさんの方が久万高原町を訪れてもらえるように情報発信をしていくことが我々「久万高原 山と森とモルック」の使命と考えます。



あおばコミュニティ・テラス

木村 壮(神奈川県)

中学生時代「市ヶ尾ユースプロジェクト」に参加、小学校時代からいじめられた経験により小学生向けいじめ対策プログラムを作成。まず 6 年生にアンケートを実施後、道徳の授業でいじめについて深く考えを促し、体験談を語り、横浜市「いじめ防止市民フォーラム」で報告しました。

高校時代はあおばコミュニティ・テラスの中心メンバーとして「あおばコミュニティ・テラス リニューアル大作戦」「みなとみらいの未来を考えよう」等、身近な課題・まちづくりへの提言をテーマに WS を自ら提案、ファシリテートしています。この動きが横浜市役所の政策決定プロセスで、まずWSで多彩な声を聴く動きにつながっています。現在大学 2 年、数学教員をめざしています。

フラピクニック実行委員会

杉浦 未季(伊予市)

ハワイを感じさせる美しい五色浜。フラを通して人々がつながり、いつか五色浜がフラの聖地といわれるようになれば！そんな思いから 2015 年よりスタートした「フラピクニック in 五色浜」

夏休み最後の日曜日、県内外の世代・流派を超える人々が集まり、地域活性化を図ることを目的としています。

第8回の今年は全国から過去最大数のフラダンスチームが参加しました。

映えスポットなども大変、賑わい、テーマソング「Hula Pikiniki」(山内アラニ雄喜作、クムフラ・Sandii 振り付け)を皆で踊り、チームを超えて盛り上がりました。

地域を中心として他団体やメディアと協働しフラの聖地を目指して新たに挑戦していく予定です。

<https://hulapicnic.wixsite.com/goshikihama> フラピクニック実行委員会

特定非営利活動法人 U.grandma Japan

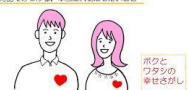
松島 陽子(宇和島市)

平成30年7月豪雨災害後に「今私たちにできること」はないかと立ち上げた団体です。支援をしたことでコミュニティの大切さを感じました。

地域の課題を見つけながら、その都度必要な活動をすることで、人に寄り添い自分たちでできることを考え活動しています。

フェーズフリーの考えから「いつも」をよくする「もしも」をよくするみんなをよくするをモットーに人と人とのつながりを大切に思っています。

～お話を聴く、本心に大いにしほらにと～



広島県府中市教育委員会

津田 典和・奥村 圭太(広島県)

府中市は、全ての学校にコミュニティ・スクールを導入し、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進により、地域とともにある学校づくり、学校を核とした地域づくりを推進しています。導入期の苦労や葛藤、取り組みが広がってきた要因等をご説明します。

また、今年の7月に府中市CSフォーラム2023を開催しました。大会テーマは、「共有と実感～コミュニティ・スクールの深化と挑戦～」です。コミュニティ・スクールとは何か、改めてその趣旨や目的に立ち返るとともに、学校、家庭、地域の真ん中に子供たちを置き、子どもたちの成長を支えるために何ができるか、共に探り、新たな一歩を考える機会となりました。そのフォーラムでの実践発表等の一端をご紹介します。

にいはまグローバルネットワーク

小松 柊成(新居浜市)

にいはまグローバルネットワークは、自分たちが育ったまちに、お世話になった方々に恩返しをしたいという想いを抱き、集まった若者たちによって、2018年に立ち上がりました。発足以来、ESD(持続可能な開発のための教育)を主軸とした活動や取り組みを行っています。発足から今日までに行ってきた活動や経験、体験を地域に還元するためにはどうすればよいか、一緒に活動を行う仲間をどう集めるかが、当団体の課題です。

この課題を乗り越えて、新居浜を住み続けたいまちにするために、培ってきた知識や経験をお世話になった皆さま、未来を担う子どもたちに還元し、市民参加型の活動を行うための課題や苦労とこれからの取り組みについて発表します。

愛媛県立北宇和高等学校三間分校 地域情報ビジネス部

猿谷 めぐみ・早川 海奈・和田 明莉・和田 恋羽(宇和島市)

地域課題の解決のため、「みまプロジェクト」を立ち上げました。

1つ目はライスバーガー開発・販売による三間米のPRです。地元特産の三間米を使用、地元産・自家製ソースのライスバーガーを開発し、マルシェ等のイベントで出店しており、メディアにも多数取り上げられ、市民からの反響は大きいです。

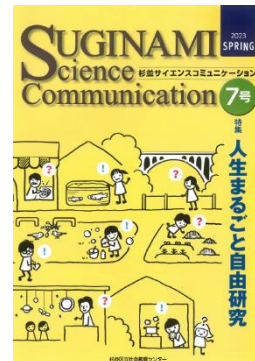
2つ目はビジネスインターンシップの実施です。地域課題の人材不足解消のため、生産者や商店の要望から高校生を派遣し、仕事内容や地域課題の実情を体験しています。

3つ目にサードプレイスの構築です。農家古民家を地域の活動拠点として使えないか検討しています。現在、地域住民、近隣の高校生、大学生を含めて体制構築を目指しています。

社会教育士すぎなみの会

山口 京子(東京都)

2023年3月、杉並区立社会教育センターで「杉並サイエンスコミュニケーション～特集 人生まるごと自由研究～」という冊子を発行しました。子どもにとっても大人にとっても、自分が見つけた「？」を「！」にすることはとても素敵なことです。人生まるごと自由研究(生涯にわたって、学びたいことを、学びたいときに、学びたい場所で、学びたい方法で、学びたい人と学ぶこと)の価値を強く感じています。この冊子の発行をきっかけに子どもの学びを応援したことで、「？」が「！」につながった事例、これから実践していきたいことを紹介します。



東温市地域教育プロデューサー(地域学校協働活動推進員)

藤岡 慶太(東温市)

2017年に地域おこし協力隊として東温市に移住し、地域の情報発信や地域活性のためのイベント企画などをおこなってきました。2018年からは地域学校協働活動にもかかわりはじめ、市内小学校の放課後子ども教室や土曜教育活動の運営をしています。3年間の協力隊任期終了後から現在まで関わっている多世代交流拠点施設「横河原ぷらっと HOME」を利用した子どもの居場所づくり、行政と連携した子どもの居場所づくりについて紹介します。

また、地域おこし協力隊が地域教育活動にかかわるようになった経緯や、地域づくりの観点からの子どもの居場所づくりについて発表させていただきます。

一般社団法人 未来のわくわく研究所

武田 悠平(宇和島市)

本事業は、こどもたちの主体性を引き出すことができる地域の大人と高校生を養成し、こどもたちの「主体性」「やってみたい！」を引き出し、大人も含め地域全体で応援する仕組みを作ります。

小学生・高校生にとって、親や先生以外の大人と関わることは少ないです。この事業を通してお互いに、学校や地域・世代を超えたつながりをつくります。

そして、地域の大人たちとの接点を多く体験するほど「自分で決める力」が付き、自信と勇気をもって人とつながり、こどもたちが自分の未来へ「一歩を踏み出す」ことができるようにサポートをする事業を行います。

あおば障がい児者ネット つむぐ

佐々木 由紀(神奈川県)

「あおば障がい児者ネット つむぐ」は横浜市青葉区在住の障害児・者の保護者と「共生社会」の実現を目指し、地域福祉の情報共有や課題解決を目的に結成した団体です。

団体立ち上げの直後に子どもが他界したため、わたしの立場に変化が生まれました。

重度重複障害児の保護者、社会福祉士、地域学校協働活動推進員、そして「元」保護者という、それぞれの視点から、子育てや福祉、教育についてお話しします。私たちが目指す「共生社会」とはどのような社会なのか、皆さんと共に考えたいです。

いよあかり

須賀 弥生・福森 清子(伊予市)

いよあかりは、子どもたちの「やってみたい」を応援したい、その場所づくりをしたいという思いからスタートした小さなグループです。竹林を活用し、伊予市から発信できるもので、地域の人や子どもたちが世代を超えて繋がり、自分の街を好きになってもらえるような活動を行っています。

初めての竹あかり作り、参加型の絵本を楽しむ会、大人限定の竹あかり、地域を照らす灯り作り、伝統工芸品の大洲和紙へのギルディング体験など、昨年度のいよあかりの活動についてお話をさせていただきます。



えひめ地域コーディネーター・ネットワーク

福本 政代・酒井 あい(大洲市・東温市)

コミュニティ・スクール化が進む愛媛県内で、身近に相談できる相手がおらず孤独を感じていた地域コーディネーターの「つながれる場所」をつくろうと立ち上げた「えひめ地域コーディネーター・ネットワーク」。

毎月の、オンライン・ハイブリッド・対面での交流会では、地域コーディネーターだけでなく、学校、地域、行政関係の方々に参加し、それぞれの立場での話を聞くことで、お互いの思いを理解し、コミスクを理解し、多くの学びや気づきを得ています。

まだ1年しか経っていないですが、このつながりをもっと広げていきたい。孤独ではなくチームでコミスクを進めていきたいと思っています。

NPO 法人みらいず works

角野 仁美(新潟県)

みらいず works は、2012 年より新潟市を拠点に活動している教育支援団体です。「未来にふみ出す学びを、子どもたちへ」をキーワードに、自分軸と社会軸が育つキャリア教育の推進に取り組んできました。現在、学校教育領域では「探究的な学びづくりの支援」を軸に、小・中・高校の授業やカリキュラムづくり等、社会教育領域では、若者・大人が PBL をベースに学び合うコミュニティづくりなどに取り組んでいます。また、地域と学校が協働して学びをつくる機会や仕組みづくりも後押ししていきたいと、コミュニティ・スクールの運営サポートにも力をいれています。

個人的には、社会教育委員として、公民館や社会教育施設のリデザイン(新たな活用の可能性)に興味関心があります。皆さんと多様な話題で交流できること、楽しみにしております！

特定非営利活動法人 えひめグローバルネットワーク

竹内 よし子・蔵野 美結・飯田 夕和・安永 百恵(松山市)

えひめグローバルネットワークは、SDGs 達成に向けて、ESD(持続可能な開発のための教育)を実践しています。今回、「トビタテ！留学 JAPAN」に合格した愛媛大学附属高校 2 年生、飛び入り参加したもうひとりの高校 2 年生、そして小学生の時に NGO を立ち上げてモザンビークとの交流を続けている中学 2 年生とともに、モザンビークを訪問しました。

開発が進む「街」と生活インフラが整っていない「村」との格差や、プラスチックごみの問題などについて一緒に考え、現地の小学校や中高一貫校訪問では、同世代のユースと言葉や文化を越えて交流してきました！ 3 人の中高生が、モザンビークを訪問して感じたこと、気づいたこと、学んだことを発表します。

畑地小学校 地域学校協働活動「和船競漕・三番叟」復活有志

猪野 啓士郎(宇和島市)

本校は、CS として、積極的に地域学校協働活動を展開しています。これまで、宇和島市の津島地域においても、新型コロナウイルスの影響や人口減少による地域行事の中止、規模縮小が余儀なくされていましたが、5 類移行に伴い、徐々に再開の動きを見せています。今回は、学校教育の立場から地域の方々とともに、下灘地区の「和船競漕」と畑地地区の「三番叟」の本格復活に協力してきました。その活動の様子を紹介いたします。これらの活動は、児童が、自分たちの地域を大切に思い、活動している人たちがいることを知ることに繋がります。そして、地域の伝統文化を学んだり、地域間交流を行ったりすることをおして、自分たちのふるさとに愛着と誇りを持たせることに広げていきたいと考えています。

Minecraft カップ運営委員会事務局

白田 侑子(東京都)

皆さん、Minecraft(マイクラフト)と聞くと「あー、あのゲームね」と思う方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

教育版のマイクラにはプログラミングの要素や先生が生徒の学習を支援できる機能があり、近年では様々な教育現場で活用されています。マイクラの一般的なイメージを【ゲームから学習】に認知を変えていくのも我々のミッションだと思っています。

今年 5 年目を迎える「Minecraft カップ」では全国の自治体や地域コミュニティを巡り、全国各地の子どもたちにマイクラを通して、デジタルものづくりに触れてもらう機会を作っています。

子どもたちそれぞれの個性や能力が発揮でき可能性に挑戦できる場を一緒に作りませんか。

NPO 団体イトコ道後

阿河 優里・森山 真菜・斉藤 葵(松山市)

「上人坂」この場所、皆さんはご存じですか。

道後温泉本館から徒歩 3 分圏内にあるのが上人坂です。この場所はその昔、色町や旅館街として栄え、夏目漱石や正岡子規も歩き句を詠んだ歴史ある場所です。しかしながら、その歴史や時宗の開祖である一遍上人の生誕地「宝厳寺」があるにも関わらず、その魅力や認知度はまだ低いのが現状です。

そこで官民学が一体となったまちづくりスクール松山アーバンデザインスクール 4 期生が「上人坂をたくさんの人に知ってほしい」と願い、2018 年に弊団体を設立。現在は、想いを受け継いだ大学生が主体となってその魅力を伝えるためにイベントの企画・運営を行っています。



愛媛県立八幡浜高等学校商業研究部 A★KIND

菊澤 郁代(八幡浜市)

商業研究部は、商工業や観光など様々な分野に目を向け、高校生の視点から地域のためにできることを考え、観光列車やフェリーのおもてなし活動、イベントの企画・運営、商品開発など数多くの地域貢献活動に取り組んでいます。

近年では、地元企業の協力を得て、未利用魚の魚食教育の推進、農業と漁業をマッチングした八幡浜いよかん鯛めしやパスタソースの商品開発と販売に取り組みました。今年度は、地元の柑橘を活用し、SDGsに配慮したジェラートの商品開発に取り組み、地元道の駅で販売しています。観光客をターゲットとして販売実績をあげ、全国規模への販路拡大を実現することで多くの人たちに八幡浜の魅力を発信したいと考え、日々活動しています。

NPO おのみち寺子屋

今村 美雨・八木 廉士郎(広島県)

8月中旬に4泊5日を掛けて、小学4年生から6年生100名が尾道市内100kmの道のりを歩き抜く事業です。

小学生のサポートは大学生及び高校生のボランティアスタッフが当たり、彼ら学生スタッフは5月から8月まで事前研修を13回受講します。

そして、事後研修を2回実施し、学びや気づきを自らの夢の実現につなげています。

また、地域の方と協働でコースの整備を行うなど、地域コミュニティの活性化にも寄与しています。

その他、学生スタッフは人間力育成塾として1年間を通じて研修を受講し、ビジネスマナーの習得や自己分析・他己分析、また、ライフプラン、ライフラインチャートの作成等を通じて、人生100年時代に向けたライフシフトについても学ぶ機会になっています。

立花地区コミュニティ推進会

伊藤 雅章(今治市)

I. 立花ハロウィン発祥の背景 2000年頃第1次立花戦争(派閥対立)、2005年頃第2次立花戦争(利権派 VS 民主派)を経て、地区事業を民主的に、子どもも高齢者もみんなのやりたいことをみんなで作ろうという仕組みができた。

II. 立花ハロウィンの運営の姿…ロジャー・ハート提唱の「子どもの主体的な参加を計る『8つのはしご』」により評価 立花地区イベントに子どもの参加を呼び掛ける。9月ハロウィン小学生スタッフ募集、子どもワクワク会議で企画を考える。子どもの主体的参加が実現できる運営組織形態と運営チーム・企画ブースの分担を小学生スタッフ相談で決める。振り返り会を通じて、自分たち・地域の成長を感じあう。

III. 展望と課題

1. 学校や行政・公民館、身近で足を引っ張る者への不満たらたら
2. 地域の活動の展望と課題

公民家サークル

平岡 真由美(松山市)

農家の納屋を地域に開く、いわゆる「家開き」を始めて、約3年が経過しました。私たちの取組に「公民家(こみんか)」という名前も付けていただきました。公民家とは、「個人の住宅や納屋、倉庫などを地域に開き、公の場とする活動を行っている場所」のことを指します。私たちが公民家としている納屋は、「図書室」、「カフェ」、「技術室」、「裁縫室」、「音楽室」など企画する内容により姿を変えますが、近所の方々や、イベントに参加してくれた方々の出会いと交流の場という位置付けは変わりません。

今回の発表では、公民家での活動事例や活動をとおして考えたこと今後の展開等についてお話しいたします。



なんぶサイカッツ(南部町の若者有志)

大塚 怜・大前 拓(鳥取県)

【極意！迷わず聞けよ、聞けばわかるさ。大人こそ夢をもて！】

行政職員、地方創生団体職員、拠点施設職員、青年団など、多種多様な、まちづくりを仕事や活動としている若者を集めた有志団体です。現在 15 名。

まちづくりを仕事としている人間、まちを盛り上げたいという人間が集まり、仕事では出来ない少し尖った、少し適度な、まちづくりを勤務外で行っています。

活動内容、ねらいは、聞けばわかるさ！ということですのでよろしくお願いします。

今治市防災士会

砂田 ひとみ(今治市)

毎年依頼のある立花小学校高学年の防災出前授業。子どもたちの意識は高いが単発で終わることが多い。継続しての学びはできないかと地区防災士が提案し、災害時に守られる存在だけではなく自ら学び・考えることができる力を磨いて地域のリーダー「子ども防災士」になりたい4年生から6年生に募集をかけました。

地区防災訓練参加をスタートとし、イベントや学習会を開き、課題プリント提出など基準に達した5名を3月に『立花こども防災士』として認証。認証された子ども防災士は、今年度の市内防災イベントや地区防災訓練にスタッフとして参加。今年度は新たに29名が登録。保護者 LINE グループで活動の案内や活動の様子を発信しています。



久米わくわくチャレンジサタデー

石丸 千晴・濱野 有美香(松山市)

久米わくわくチャレンジサタデーは、教員になるための資質能力の育成や、子どもたちの居場所づくりを目指し、2005年より松山市の久米公民館、久米小学校、愛媛大学で連携し行っている事業です。年に7回程度、土曜の午前中、5、6年生約30名を対象に、15名ほどの学生で、授業、人間関係づくり、遊びの各時間の目標・内容・方法について企画・準備し、公民館、小学校、保護者、大学と相談・連絡しながら活動しています。

毎回最後には、協議会でふりかえりを行っています。毎回主担当の学生が、授業や活動の意図や自己評価を述べ、学生同士や、大学教員、久米小学校教員、公民館や地域の方々からの評価や助言を受け、気づきや学びを重ねています。

NPO 法人 ひとつむぎ

中山 知華(徳島県)

3年間に及んだコロナ禍により、大学生や活動拠点である牟岐町の子供たちを取り巻く環境は変化し、コロナ禍以前に行っていた社会教育事業が休止。地域に直接関われない状況が続く中で様々な葛藤を経験しました。そのような中で学校教育に挑戦した中学2年生対象の平和学習は今年3年目となり、大学生が直接沖縄を訪問し取材を行いました。

他にも、牟岐町の若者を中心とした他団体と連携して開催した「牟岐みらい探究」などコロナ禍を経て変化した活動について紹介します。

みちくさこども食堂

野間 千愛(松山市)

みちくさこども食堂は、松山市東本にあります。

コロナ禍で不安はつりながらも、地域の有志で2021年5月19日に立ち上げました。

当初はおうちにひとりであるなら立ち寄って気軽に話せる場所になってほしい・おいしい旬の野菜を使った食事を食べてもらいたいということをコンセプトのもとに始めました。

孤食を防ぐということだけでなく、課題を持つ家庭や、不登校やひきこもりの子どもたち、障がいのある方の外出先、学生たちのボランティアの場等、さまざまな交流がいきかうこども食堂となりました。田植えや稲刈り、タケノコ掘り、もちつきなど、体験を楽しんでもらったりもしています。

できることをできるだけ いろんな人が立ち寄れる場所であるよう肩ひじはらずに和気あいあいと楽しんでいます。



双海町ジュニアリーダー会

中島 空・島 彩心琉(伊予市)

結成から12年、たった一人の「双海町こども教室に恩返しをしたい」と始まった本活動も、今では40名を超える会員が活動しています。結成当初の「恩返しをしたい」という想いを引き継ぎ、こども教室での企画・運営に携わっています。

さらに、その想いはこども教室だけにとどまらず、今では双海町を盛り上げる活動へと波及しています。

当会の結成プロセスから現在の活動状況、参加する会員たちの双海町への想いなどを、実際の大学生リーダーがご紹介します。

NPO 法人 だっぴ

森分 志学(岡山県)

「若者の可能性と実現力を開拓する」をミッションに、キャリア教育の機会を岡山県内外 16 市町村で展開しています。中高生×大学生×大人の対話プログラム「中学校・高校生だっぴ」では、普段は出会わない人たちとの対話を通して、中高生の自尊心や将来の選択につながる発見や学びを生んでいます。

また、このプログラムを各市町村で組成された実行委員会の手で企画運営することを通して、地域(学校外)の教育力の底上げも目指しています。

その他、高校内の放課後のフリースペース「放課後キャリア探究」や進路探究メディア「生き方百科」の活動を通して、中高生が自分の問いを見出し、行動できる仕組み・環境づくりにも取り組んでいます。

スクノマの会(不登校対策サポートチーム)

小笠原 忠彦(新居浜市)

本会は、新居浜市 PTA 連合会役員が中心となって、不登校支援(保護者支援)を目的に立ち上げた会で、正式には令和3年4月設立。現在、スタッフは16名で、月一度定例会を開いて、運営等を協議し、取組を進めています。

本会では、今年度から、愛媛県人権対策協議会新居浜支部の支援を受け、「教育支援事業」を進めています。「教育支援事業」は、学校生活に不安を抱いている児童生徒、その保護者の支援を目的に、保護者支援(相談活動)、個別学習支援(児童生徒支援)、スクール・サポート教室(体験活動をメインとした居場所づくり)を開催。

相談活動と児童生徒支援は、毎週火・木曜日午前中(相談員、指導員が常駐)、スクール・サポート教室は、毎月第二土曜日午前中、いずれも新居浜市瀬戸会館で開催しています。

教会子ども食堂

森分 望(松山市)



見渡すと教会の周りでは、独居の高齢者の孤独死が続き、子どもも高齢者も孤食で孤独な状況でした。繋がりの薄れた地域で温かくホッとできる交わりの場になりたいと始めた子ども食堂でコロナ禍に困窮する方々と出会いました。

同じ地域で子ども食堂を行うお寺の住職と協力してフードバンクの活動を開始。3年間で30の子ども食堂・20の福祉団体に食品を提供するフードバンク活動に広がりました。食品を通してできた繋がりはやがて子ども食堂ネットワークへと発展。同時にフードバンクが開催する困窮者支援のコミュニティパントリーは、一人一人と対面しながら食支援を行うみんなの居場所に。違いを越えて広がる繋がりと現在の活動の課題についてお話しします。

無人島チャレンジ実行委員会

善家 瑛徳・橋本 泰志(愛媛県)

この事業は夏休みに県内各地から集まった小中学生が、愛媛県宇和島市沖の無人島「御五神島」で一週間の無人島生活を体験するというもので、今年 33 回目を迎えました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、3年間実施できておりませんでした。今年度はこれまでの、48 名から 28 名に募集人数を減らし、実施しました。

島には、電気も水道も水洗トイレもありません。普段とは全く違う「不便」「不足」「不自由」という「三不」のなかで、集団生活を送ります。時にはぶつかり合いながら、困難を克服し、しなやかでたくましい精神を養っています。

分散会では、本事業において指導者として子どもたちと深く関わった愛媛大学教育学部の学生が、今年度の活動の様子と成果を発表します。

愛媛県立松山工業高等学校工業化学同好会

工業化学同好会生徒(松山市)

体験入学で行ってきた科学実験のノウハウをいかし、小学生に科学のおもしろさを伝える活動を始めました。児童クラブの先生と打ち合わせを重ねる中で、「実験の成功よりも、子どもたちが主体的に楽しむ力や試したい思いなどを大切にしたい」と考えるようになりました。好奇心いっぱいの子どもの反応や自由な発想に触れることで、試行錯誤しながら学ぶことのおもしろさを一緒に感じています。

より良い体験学習になるように調べたり話し合ったりすることで、自分たちの学びも深まっています。わたしたち自身も主体的に取り組むことで、一人ひとりにとって思い入れのある活動になっています。



いよ本プロジェクト運営委員会

岡田 有利子(伊予市)

私たちは、紹介型読書会や古本交換会の開催、私設図書館の運営を通して、「本」と「人」をつなぐ、「本」を通して「人」と「人」がつながることを目的に活動しています。

今年度は、伊予市内の公民館等でイベントを開催しながら、伊予市に関わる人百人に好きな本を一冊紹介してもらい、『いよし百冊物語』という冊子を作成しました。百冊の本紹介であり、百人の人紹介でもある冊子です。市内の小中学校にも協力してもらいました。「本」は「人」を近くする。「人」は「本」を近くする。これを読んで、新たな本に出会うだけでなく、伊予市に住む人の魅力に気が付いたり、自分自身を振り返ったりする、種のような冊子になればと願っています。

12月3日(日)9:00~9:50

愛媛大学教職大学院 中尾ゼミ(松山市)

インタビューからの発信

地域教育とは何か

学び合うための貴重な体験の場

地域教育との出会い
中尾「もともと教員でありながら、私が言うのもなんですが、学校はなかなか変わらない…。二十年前に、当時愛媛大学附属小学校長であった讃岐先生との出会いがあり、「地域全体で子育てをしていく、生き抜く力は学校だけではつとれない」と言われました。学校は地域の中の学校であるとも。そのときにはつとしました。

今回は、長い間、地域教育に携わって来られたインタビューアーのお二人にお話をお伺いしました。



新居浜市生涯学習センター

所長 関 福生

すよね。この交流会が始まる前は、社会教育や生涯学習の中で活動していました。讃岐先生や若松さんたちと、一緒にこの集会を立ち上げ、県内で子どもたちの未来を創るために活動している仲間たちと交流することで学びとつながりの意義を感じましたね。

学校と地域の関係

関「新居浜市の泉川地区では、十七、八年前に、中学校が荒れたときがありました。その際、学校長から地域に「助けてほしい」との援助要請がありました。危機が発端になり、地域が学校へ入ったわけですが、そのときにつながりが生まれ、信頼関係が一気に深まりました。地域は学校に押し売りはしません。でも、惜しみなく力を注いでくれます。今では、中学生が自発的に地域とかかわるようになり、地域での環境美化活動等も中学生が提案して、地域の方が子どもたちについていくことが当たり前になりました。基本はやはり、信頼関係でしょうね。

中尾「教師になったとき、「必ず祭りには参加するんだぞ」と言われました。地域に溶けて地域に惚れて教育を進めると、想像以上の成果に出会えるということです。ただ今確かに先生方の仕事は増え続けています。夏祭りの歌合戦に子どもを出してほしいとか、ポスターを子どもに書かせてほしいとか、学校に依頼は多く、「うーん」と思う先生もいますけれど…。

関「子どもの選択肢が増えて子どもが選ぶ機会が増えることはいいことではありませんか。

中尾「先生は、子どもがどうかではなく、外部の人がどう思うか、外からの目が気になってしまうのです。

関「子どもは興味がわかなければ本気になりません。子どもの時に面白いと思えるものに出会える子どもは幸せですよ。

中尾「とにかく先生は、「曇らぬ眼」で子どもたちを見つめていかねばなりません。

関「地域には、人との出会いや縁を大切にす等、たくさんさんの選択肢があります。その中で、一人ひとりが自由の大切さを知り、他者を認め合うような体験を通して学んでいくものではないでしょうか。いつの間にか、地域という場における教育ではなく、地域のための教育になってしまっている。子どもが、受動的に地域の役割を負わされるのは少し違う気がしますよね。

中尾「自分の思いがスタートとなった学びが必要。それをどうつくっていくか。地域とともに！というスタンスはもちろん、最近では、学校でしかできないことを洗い出し、学校でしかできないことを精一杯すること、未来が見えてくるのではないかと思っています。十年経つと、教育も変わる、教員の在り方も変わってくるでしょう。そんな中で、子どもをどう育てていくか真剣に考えていきたいと思っています。



愛媛大学教職大学院
特定教授 中尾 茂樹

地域教育実践交流集會に思うこと

関一まさに対話の場です。大人のアクティブラーニングそのものです。地域、学校、NPO、若いも若きもフラットな感覚で語り合う、わくわくさせる場です。対面で、対等に、対立してもその先に共通理解に辿り着く。結果、みんなで頑張る汗かこうねと。中尾一分散会で自分のもつていない価値観の人たちと出会うのはとても嬉しい。交流会とか宿泊とかで、対話、協議するのも楽しい。コミュニケーションだけを目的とする会話がこの集會にはあると思います。

関一社会教育をする人は知識や経験を出し惜しみませんよね。尋ねれば答えが返ってくる。正解かどうかはわかりませんが、全国各地の同志が集い、違った視点でワイワイすると何かが心に残りますよね。それが明日からのエネルギーになります。中尾一本当に色々な人に出会えます。そしてその一人一人が実に鮮やかに個性的です。これもこの会の魅力の一つです。

推薦団体について

関一NPO法人みらいず works の理事の角野さんは岐阜県可児高等学校出身です。浦崎太郎先生のもとで、地域課題解決を学びました。新潟で「みらいず」が立ち上がったことを知り、新潟大学教育学部に進学。



NPO法人みらいず works

発表者：角野 仁美

卒業して同NPOに入り、キャリア教育コーディネーターとして活躍しています。新潟市の社会教育委員も務めています。



中学校現場での探求授業

中尾一ゼミでは、閉校になる学校の最後の運動会をサポートする活動や東北の被災地に行くなど、地域におもいきり入る活動をしています。教員になりたいという学生の話も聞いていただき、様々なご意見を聞きたいと思っています。



愛媛大学教職大学院 中尾ゼミ

発表者：善家 瑛徳・新宮 美月
坂本 鈴佳・神野 哲汰

地域教育で未来は創れるか

中尾一学校は、他者評価を気にしすぎて、オーバーフローしてからでないか、助けてとは言わないところがあります。どのような子どもに育てるか。「分かったら、分らない」と言える子どもを育てる！子どもの心のスキルはそこに現れると思います。

関一人は生まれたときは、親の力に全面的に依存します。大きくなるにつれ、自分でできることが増えていく。でも、ずっと誰かに力を借りて大人になります。その恩は受けた人に返すことで報いるものではなく、次の世代に贈与していくことで報いること。ギブアンドテイクではなく、恩送り心が地域教育には脈々と流れている。それを絶やさないよう続けていきたいですね。



閉校になる小学校での運動会

中尾一文科省のいう、探求的な学びにはゴールがない、答えもない、積み上げていったものすべてが正解！例えば、避難訓練を定期的に行っていますが、それは新たな課題を見付けるためにしているのです。そう考えればさほど難しくない。少し肩の力を抜いて、学校も地域もお互いに「助けて」と言える関係性をつくりながら進んでいけばよいのではないのでしょうか。

関一以前、中尾さんから石巻市の大川小学校の石碑について話を聞きました。石碑をみていけば、全員助かったはずなのに、誰もみていかなかった。

中尾一そこで、中学生が木の碑にすればどうかと提案した。二、三年すると風化するのでも、また、建て替えることになる。そうすると必ず思い出すことができる。子どもは未来という大人の背中をみています。私たちは、大人になる子どもたちに生きる感動を伝え、また、互いに学びながら、次の世代へと受け継いで行かなければなりません。

おでん∞café

12月3日(日)10:00~12:10



今回のお題

どうする地域教育！

おでんがおいしいのは、どうしてなんだ
ろう...？それは、それぞれの具材から出
てくる「うま味」とおでんを囲むみんな
の「笑顔」があるからなんだろうなあ〜。
大洲のお鍋の中で溢れ出る「うま味」と
笑顔の「おでんカフェ」をみんなで一緒に
味わいましょう！



回し人 舟田 美加

愛媛県内の公立中学校教諭を経て、平成30年4月1日より
愛媛県教育委員会社会教育課に勤務 社会教育主事

讃岐幸治氏のおでん理論と world café を組み合わせるとおでん∞café。おでんは、色々な具材を一緒に煮ることで、単独では決して出ない美味しい旨みを出します。みなさんは、おでんの具材と見立てています。一緒に煮こまれて美味しい味を出してください。

World café とは

Café のようなリラックスした雰囲気の中で、少人数(5~6人)に分かれたテーブルで自由に語り合います。一定の時間が過ぎると、ホスト(今回はあらかじめお願いしています)を残して、別のテーブルに着きます。そこで、新たな仲間と話を深めます。(最初のメンバーと重ならないよう移動します)それを何回か繰り返します。

移動可能な自由でオープンな設定により、会話を楽しみ、参加者がテーマをもとにして、相互理解をすることを目的としています。問題解決や結論を求めるものではありません。

ホストの役割は、メンバーに簡単な自己紹介と、前回のテーブルで話された内容を新しいメンバーに説明して、そのことからイメージする発想などを深めること。

最後は、他のテーブルに散ったメンバーが最初のテーブルに戻り、移動先での内容や知り得た情報、さまざまな意見やアイデアを話し合います。さらに、各テーブルで話されたことを全体で共有します。

※内容に優劣をつけたり、結論を出したりするものではありません。ポジティブに相手を受け入れ、心をオープンにして、新しい出会いをたのしんでください。

東中南予ブロック集会

～より地域に密着した実践交流の場として～

地域の特色を活かしての開催です。現場でなにが起きているか、乞うご期待！

興味のある方は、ぜひ、参加してみてください。

東予地区

令和6年2月4日（日） 西条市中央公民館
熱くなれ！

第7回地域教育実践東予ブロック集会の見どころは・・・

その1 見よ！未来を切り拓く 高校生のスゴ技

今治工業高等学校機械造船科のスゴ技で、参加者の心を奪います。

その2 見よ！地域を想う 高校生が創るSDGs

丹原の高校生が仕掛けた「七夕夜市」、高校生のつながる力と企画力に心震えます。

今治東中等教育学校の「SFキーパズ」、高校生の行動力と発信力に心震えます。

その3 みんなで描く！ミライのガッコウ

こどもたちがミライを切り拓くためのガッコウとは。地域も、立場も、年齢も超えて、自分が描くガッコウを語り合います。思いを言葉に、概念をぶち破ります。



昨年度の様子

中予地区

令和6年1月27日（土）14時開催！

愛媛大学社会連携推進機構地域協働センター中予東温



北吉井小学校で

会場は、東温市です。大学生の防災教育物語（愛媛大学教職大学院）と東温市の小学校で貢献する高校生（松山聖陵高校）の実践発表交流と「シン・地域教育を語るワークショップ」を行います。新・真・心・進・伸の意味をもつ「シン・地域教育」を中予ブロックでチャレンジします。新・旧若者の熱い集会に注目！・・・未来を変えていくのはチャレンジ精神です。

南予地区

高校生による地域づくり・地域貢献の集い in 野村（仮称）

令和6年1月20日（土）西予市野村地域づくりセンター（旧野村公民館）

＜高校生にスポットを＞

「地域づくり」や「地域貢献」をテーマに活動を展開している各種団体が集合します。

＜さらなる化学反応を＞

互いの取組を紹介し合い、刺激し合い、交流を深めます。新たな気づきから、さらなる展開が期待されます。

＜伴走者としての在り方を＞

伴走者としての大人の在り方は∞（無限大）。高校生×大人で語り合います。



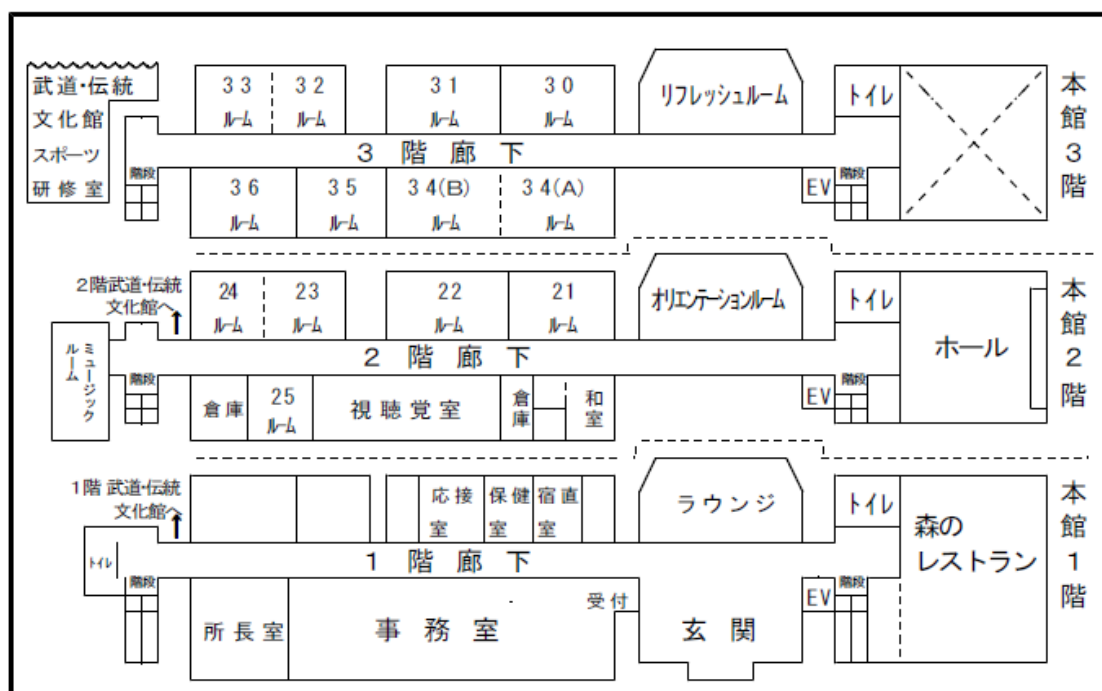
N-ジオチャレ（西予市野村町）

参加団体(依頼中)：N-ジオチャレ（ホスト団体）、長浜高校美術部、☆KINDO

三崎高校、北宇和高校三間分校地域情報ビジネス部

宇和島市ホリバタ高校生プログラム、（一社）マツノイズムプロジェクト、他

会場見取り図



地域教育実践交流集会えひめ実行委員会

代表 若松 進一 名誉顧問 讃岐 幸治

赤石 雅俊・明瀬 貴子・浅野 長武・井門 照雄・今井 博志・上田 和子・榎並 理子
 遠藤 敏朗・小笠原 貴久・鍵山 直人・キム チャンピ・小池 源規・堺 雅子・坂口 智紘
 柴崎 あい・菅原 恵・隅田 直軌・関 福生・仙波 英徳・大藤 毅・武智 理恵・田鍋 修
 田邊 裕貴・土手 康之・中尾 茂樹・中尾 治司・中島 弘二・長島 道子・西川 浩司
 西山 博・橋本 泰志・東野 博子・平岡 剛・舟田 美加・本田 精志・本多 正彦
 松本 宏・眞鍋 幸一・水野 浩司・村上 伸二・森脇 和夫・森分 洋樹・谷川 玲子
 吉田 和仁・和田 瑞穂・渡部 栄次郎

問合せ先

〒791-1136
 松山市上野町 甲 650 番地 愛媛県生涯学習センター内
 NPO 法人えひめ子どもチャレンジ支援機構 仙波
 FAX:089-960-1900 TEL:080-1995-6001
 mail:kouma@d6.dion.ne.jp

過去の活動等、興味のある方は

<http://kochall.org/>

へ